

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

- 児童
 - ・全校朝会・集会では、時間前に整列し静かに座って待つことができる。
 - ・基礎学力定着のための全校的な取組により、学力調査の通過率が向上してきている。
 - ・学習意欲・学習規律・生活指導の面では、組織的な取組が必要な児童が複数名いる。
- 教職員
 - ・学校経営計画に添って、一人一人が努力し協力して取組むことができる。
 - ・教員経験年数が少ない教員が多いが、足立スタンダードによる分かる授業に向けて努力している。
 - ・教員の半数以上が1校目であり、学習指導・校務分掌等において組織的に取組む必要がある。
- 保護者
 - ・学校の教育活動に対して協力的な保護者が多い。
 - ・基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化等において学校の関与が必要な家庭が多い。

[前年度の成果と課題]

- 児童
 - ・学級経営の安定と個人カルテに基づく補充学習の充実により、学力調査通過率が向上した。
 - ・大勢の前で堂々と発言できる自信や自己表現力を育てることが課題である。
 - ・分かる授業と補充学習等により基礎学力定着を図ることが課題である。
- 教職員
 - ・小中連携研究授業・学力定着巡回指導等により、足立スタンダード型授業が定着してきた。
 - ・若手教員が多く経験に基づく提案が少ない。主体的な活動を積み重ねることが課題である。
 - ・授業力・学級経営力を高める指導・助言をする一方で、メンタルケアを継続する必要がある。
- 保護者・地域について
 - ・地域・保護者は、あいさつ運動・地域行事に協力し、地域ぐるみで子供を育てようとしている。
 - ・PTA活動とくにスポーツや学年活動が活発で、教員と保護者の連携が取れている。
 - ・学校と家庭や地域での子供の様子の違いについて情報交換をし、共通理解する必要がある。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

- 扇小の学力向上は、1 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施 2 読書活動の推進 3 そだち指導員と学習支援員による個別指導の充実の三つで取り組んだ。
- 1. 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施
 - ①平成29年度区学力調査目標通過率（学校平均）75%以上
 - ②4月にH29年度問題で調査 → 結果分析による前年度学習内容の補習（B補習）
 - ③11月にH29年度問題で再調査 → 単元テスト分析ソフトによる現学年学習内容の補習（A補習）
 - ④2月にH29年度問題で1学年上の問題で調査。 次年度テストに向けた現学年内容の補習
- 2. 読書活動の推進
 - ①年間読書目標：1～3年80冊・4～6年6,000頁・以上が50%・・・昨年度の2倍の量
 - ②毎週1回、図書ボランティア（退職教職員）を図書室に常駐させ、読書活動を活発にさせる。
 - ③図書委員会活動の充実、読書月間・旬間・読書バイキング等の継続と改善。
- 3. そだち指導員と学習支援員による個別指導の充実
 - ①目標：3・4学年の正答率50～70%の児童全員が、そだち教室を卒業する。
 - ②1～6学年は学習支援員を活用して、学習指導の効果を高め、目標値を達成。

重点的な取組事項－2 児童の自己肯定感の醸成

1. 児童の活動、活躍の賞揚（生活がんばりカードやふれあい月間調査で良い項目を70%以上）
 - ①全校朝会で、児童・保護者・教職員の活躍を全校紹介
 - ②善行青少年顕彰と関連して、模範的な児童の校内推薦
2. 自己実現・発表の場を設ける。
 - ①各学級1回以上、音楽や音読発表など、全校児童の前で表現することにより自己有用感を高める。
3. 外部講師による体験活動を実施
 - ①全学年で1回以上の体験活動を行う。オリンピック・パラリンピック教育も含む。
 - ②外部専門家講師の授業を行う。（落語・手話・点字・スポーツ選手、あいさつ運動等）
4. 近隣中学生との交流を通じて、学校地域への郷土愛の醸成
 - ①扇っこまつり（小学校行事）への生徒招待。中学校行事への児童参加を学校間で連携して実施。

重点的な取組事項－3 教員の授業力向上

1. 足立スタンダード型の授業づくり研究、研修
 - ①年間3回以上の授業観察を基に管理職と学力定着指導員が授業観察を行い、指導し改善させる。
2. 5年目以下の若手研修会を小中連携授業公開として実施
 - ①小中連携授業、ブロック内で若手研修会の実施と連携させ、若手の授業研究を行う。
3. 区内外の教育研究会への参加促進
 - ①区小研への参加80%、各年次研への参加100%、区内外の教育研究会等へ2回以上参加。

重点的な取組事項－4 小中連携

1. 小中教員相互の連携（扇小-江北桜中、高野小、江北小 に今年度から変更）
 - ①合同研修会（全体会・授業研究等）を年間6回以上行う。
 - ②児童生徒の実態や課題を共有し、互いの生活指導や特別支援教育等の教育活動に生かす。
2. 児童生徒相互の連携
 - ①江北桜中学校との交流を年間3回以上行う。中学校が統合初年度のため、年度途中の提案あり。
3. 生活指導の連携
 - ①交通安全・生活安全について小中で共通した指導を行う。
 - ②課題のある児童生徒を共通理解し、指導に生かす。
4. 地域・PTA相互の連携
 - ①地域行事、PTA主催行事に児童延べ100人派遣。小中連携講演会等に延べ10人以上の教員参加。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

○扇小の学力向上は、1 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施 2 読書活動の推進 3 そだち指導員と学習支援員による個別指導の充実の三つで取り組んだ。

<成果>

1. 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施
 - ①平成29年度区学力調査目標通過率（4月実施）は、目標の75%以上を上回り、79.9%であった。
 - ②結果分析による前年度学習内容の補習を「B補習」とし主に担任以外が担当した。また、単元テスト分析ソフトによる現学年学習内容の補習を「A補習」とし担任が行った。分担を明確にして全員で組織的に行えた。
 - ③校内学力向上委員会の提案により再調査の回数を増やし、次年度テストに向けた現学年内容の補習を行った。
2. 読書活動の推進
 - ①年間読書目標を昨年どの2倍にしたが目標であった50%以上の児童が達成した。図書ボランティア等の活動の成果である。
3. そだち指導員と学習支援員による個別指導の充実
 - ①そだち指導を受けた3・4学年24名の児童全員が、そだち教室を卒業できた。
 - ②各教室における学習支援員による個別指導により、担任が授業を展開しやすくなった。

<課題及び解決の方向性>

- ・学力調査の結果は向上したものの言語事項や文章読解力等が弱いため計画的な補充学習教室を継続する。
- ・学級経営が乱れ、学力に影響が出た学級があるので開設される特別支援教室と連携した指導を工夫していく。
- ・読書だけでは語彙の獲得や読解力の向上につながらないので、ことばの力を高める取り組みを工夫していく。
- ・そだち指導で用いている教材を補充学習や個別指導に生かし切れていないので、連携を強化していく。
- ・全体指導について行くことが難しい児童がいるので、特別支援教室と連携した指導を工夫していく。

重点的な取組事項－２ 自己肯定感の醸成

<成果>

1. 児童の活動、活躍の賞揚（生活がんばりカードやふれあい月間調査で良い項目を70%以上）
 - ①「今月の俳句」の取り組みで「校長賞」を選び、毎月児童を表彰することができた。
 - ②善行青少年顕彰に、挨拶が上手な児童を「模範的な児童」として推薦し、表彰していただくことができた。
2. 自己実現・発表の場を設ける。
 - ①各学級または学年合同で音楽や音読発表など、全校児童の前で表現することができた。
3. 外部講師による体験活動を実施
 - ①全学年で体験活動を行った。外部専門家講師による落語・手話・点字・俳句等の学習は継続している。
4. 近隣中学生との交流を通じて、学校地域への郷土愛の醸成
 - ①扇っこまつり（小学校行事）に中学生を招待し、吹奏楽の発表や模擬店補助等で連携・交流した。

<課題及び解決の方向性>

- ・表彰される時に大勢の前で大きな声で返事したり、全校児童の前で堂々と自己表現することが苦手な児童が依然として多いので、表彰活動や表現活動をさらに工夫して継続・発展させていく。

重点的な取組事項－３ 教員の授業力向上

<成果>

1. 足立スタンダード型の授業づくり研究、研修
 - ①年間3回の授業観察・指導を通して「分かる授業」の実践に向けて授業改善させた。
2. 5年目以下の若手研修会を小中連携授業公開として実施
 - ①小中連携授業では全ての教員が指導案作成・学習指導に関わり、9年間の学びの連続性について理解を深めた。
3. 区内外の教育研究会への参加促進
 - ①区小研への参加80%、各年次研への参加100%を堅持し、区内外の教育研究会への参加を推奨した。

<課題及び解決の方向性>

- ・校内に模範となる教員がいるにも関わらず互いの授業を参観し合うことが少ないので、授業参観によるOJTの方法を確立させ・実施していく。

重点的な取組事項－４ 小中連携

<成果>

1. 小中教員相互の連携
 - ①今年度から扇小-江北桜中、高野小、江北小の4校での連携になったが、8回の合同研修会を計画的に実施し、9年間の学びの連続性について活発な意見交換ができた。
 - ②保健部会が中心となり児童生徒の実態や課題を共有し、互いの教育活動に生かすことができた。
2. 児童生徒相互の連携
 - ①統合初年度ではあったが、江北桜中学校との交流を昨年度までと同様に行うことができた。
3. 生活指導の連携
 - ①課題のある児童生徒について養護教諭やカウンセラー、SSWを窓口として共通理解し、指導に生かした。
4. 地域・PTA相互の連携
 - ①地域行事、PTA主催行事に児童・教員を大勢参加させることができた。

<課題及び解決の方向性>

- ・合同研修会の教科・領域別部会の分け方について見直しを求める意見が出たので、分科会を増やして改善する。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- ・保護者並びに地域の皆様には、扇小学校の教育活動へのご理解・ご協力に感謝申し上げます。特に、学力向上や学級経営の安定についてはご心配をおかけしております。おかげさまで、平成29年度の教育活動をほぼ予定通り実施することができました。これからも「素直で明るい扇っ子」を育てるために皆様のお力をお貸し下さい。
- ・もうすぐ扇小学校は創立50周年を迎えます。児童や保護者が扇小学校を愛し、卒業生・地域の皆様が扇小学校を「出身校・地元の学校」として誇りに思っただけのように、職員が一丸となって努力していきます。
- ・学校では、集団生活の中で起きる様々な経験を通して「知・徳・体」のバランスのとれた子供を育てていきます。保護者にとって「うちの子が一番」であると思う気持ちは当然のことですが、その他の扇小学校の子供たち全員に対しましても、温かく時には厳しく声をかけていただければ幸いです。同様に、学校に対しましても、温かく厳しいご助言・応援をいただけますよう、よろしく願いいたします。

2. 平成29年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の基礎的学力の定着を図る	区学力調査 通過率75%以上	4月-11月-2月(実施前) 目標通過率 国語 81.6%-86.2%-74.5% 算数 78.1%-83.4%-70.8% 全体 79.9%-84.8%-72.7% <28年度> 国語 63.4%-77.7%-58.3% 算数 56.5%-73.2%-54.0% 全体 59.9%-75.5%-56.2%	全校の補習体制が改善され、児童に基礎学力が定着してきている。現学年内容の定着も達成したい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施	11月調査で通過率85%以上、2月調査で80%以上	4月にH29年度問題で調査、11月にH29年度問題で再調査、2月に1学年上のH29年度問題で調査。毎月、補充学習計画作成。	4月-11月-2月(実施前) 目標通過率 国語 81.6%-86.2% 算数 78.1%-83.4% 全体 79.9%-84.8% -74.5% -70.8% -72.7%	4月実施調査で目標通過率75%を達成し、前年度内容の補習により11月調査ではほぼ目標を達成した。	○
読書活動の推進	年間読書目標 1～3年 80冊 4～6年 6,000頁 以上が50%	毎週1回、図書ボランティアを図書室に常駐させ、読書活動を活発にさせる。また、教員の読書指導への助言や協力を行い。本が好きな子供を育てる。扇お勧め読書リストの作成と前後期に読書量調査を実施。達成者を表彰する。	1～3年 83名/155名 4～6年 67名/129名	目標とする読書量を昨年度の2倍にしたが、約半数の児童が読書量を増やし、80冊または6000頁を達成した。	○
そだち指導員と学習支援員による個別指導の充実	3・4学年の正答率50～70%の児童全員がそだち教室を卒業する。	3・4学年はそだち指導員を中心に、1～6学年は学習支援員を活用して、学習指導の効果を高め、目標値を達成。	専科等が主に行う前年度内容の補習(B補習)と連携し、2クール合計24名全員卒業。 11月実施の学力調査で、目標値をほぼ達成。	そだち指導員と担任・専科の連携が強化された。基礎学力向上の観点で、学習支援員の効果が大きい。	◎

重点的な取組事項－２ 自己肯定感の醸成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童が自らと扇小に対する自尊感情を育む。 児童が自らと扇小に対する自尊感情を育む。	児童の生活が んぼりカード やふれあい月 間調査で良い 項目を 70%に する。	児童アンケートにおいて、「学校の勉強が楽しい」と回答した割合は、低学年 83.5%、高学年 96%である。	児童の生活環境を整え、学習意欲が高まるように、今後も努力を続けたい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
全校朝会等の場での児童、保護者、教職員の活躍を賞揚	機会ごとに全校朝会等で表彰、賞賛、善行紹介を行う。	児童に加え、保護者、教職員も含め表彰、称揚する機会を全校朝会時に実施。	「今月の俳句」を毎月表彰した。各種大会・コンクール等への参加・応募を積極的にすすめた結果、表彰者も増えた。	地域で児童が良い取り組みをできるように、今後も積極的に紹介する。	◎
自己実現・発表の場を設ける。	学級を単位として、全校児童の前で堂々と表現できる。	各学級 1 回以上、音楽や音読発表など、全校児童の前で表現する機会をつくる。各学級では、発表日に向けて発達段階に応じた表現力の育成に励み、児童一人一人の自己有用感を高めることにつなげる。	各学級（または学年合同）が発表をすることができた。	発表をすることはできたが、「堂々と」した発表になるにはさらに練習が必要である。そして、自己有用感につなげたい。	○
外部講師による体験活動を実施。	全学年で 1 回以上の体験活動を行う。 オリンピック・パラリンピック教育としても体験活動を取り入れる。	外部専門家講師による授業を行う。(落語・手話・点字・スポーツ選手等) 東京都や地域の諸団体の出前授業に応募する。 地域の優れた人材を見つけ、講師として体験活動を指導してもらう。	1年：読み聞かせ 2年：農作物収穫 3年：俳句教室 4年：落語・点字・手話教室、 5年：稲作指導 6年：薬物乱用防止	専門家の指導による各種体験活動を実施。本物に触れる経験を学習に生かすことができた。	◎
近隣中学生との交流を通じて、学校地域への郷土愛の醸成。	児童生徒交流の場を設定。	扇っこまつりへの生徒招待。中学校行事への児童参加を学校間で連携して実施。	中学生によるサマースクールの補助や扇っこまつりへの出演。 6年生が体験入学・部活動体験に参加。	小中学校 9 年間を見通した連携がとれた。同じ地域で暮らす子供たちの交流を深め、郷土愛の醸成につなげることができた。	◎

重点的な取組事項－3 教員の授業力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
足立スタンダードの定着 (国語・算数を確実に)	「足立スタンダード」を基本として、教員の授業、児童の授業の構えを全校統一で行う。	国語・算数の足立スタンダードの研修を若手教員を中心にして、全教職員が参加して行った。	教員経験5年以下・新規採用教員を中心に、学力定着指導員による授業観察・指導を全教員・毎月行った。全教員対象の研修会も実施した。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教員に授業公開と指導法の工夫に取り組ませる。	「足立スタンダード」をもとにした授業を行わせる。	年間3回以上の授業観察を基に管理職と学力定着指導員が授業観察・指導を行い、報告書に基づいて改善させる。	毎月1回以上、全ての教員に対して、指導員による授業観察・指導を実施し、授業者には報告書にまとめさせて、授業改善につなげることができた。	ベテラン教員にも「足立スタンダード」を理解させ、学校全体で統一した指導ができるようになってきた。	○
ブロック内で若手研修会の実施	新採教員と5年目以下の教員を対象に授業研修会の実施。	新規採用教員はe-learning、足立スタンダードを研修させる。5年目以下教員は小中連携の授業研究等、年間2回実施。	e-learningは新規採用者が計画通り実施した。小中連携の授業研修会において3名の5年目以下の教員が授業を公開し協議会も実施した。	ブロック内の分科会が少ないため、3名については公開授業ができなかった。指導力向上の為、別の機会が必要である。	○
教育研究会への参加	区小研への参加80%、各年次研への参加100%、区内外の教育研究会(発表会)へ2回以上参加	区小研、各年次研参加は原則悉皆、区内外の研究会等を掲示、教科主任には指導教諭公開授業等、直接提示し参加させる。	毎月の区小研への参加は90%以上。各教科主任には指導教諭による模範授業公開に参加させるとともに、校内での伝達講習を行わせた。	区小研の部会に継続して参加する事の意義を繰り返し指導した。	○

重点的な取組事項－４ 小中連携（扇小－江北桜中、高野小、江北小）

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎学力の定着をめざした指導法の研修や、生活指導上の課題解決に取り組み、中一ギャップ解消に向けて9年間の学習・生活指導の流れをつくる。また、各校種毎に教員の授業力向上を図る。	中学校が統合新校のため、種々の交流の機会を作り、年間20回以上を目標とする。	教職員の小中連携事業について10回。扇っこまつりや江北桜祭など、交流事業を10回以上行った。	昨年度まで江北中学校との連携で行った行事をほぼ継続することができた。教員・児童生徒・保護者・地域の方々の連携が図られている。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中教員相互の連携	授業力向上のための研修会・授業研究を年6回以上行う。また、生活指導や特別支援に関する情報交換を密にする。	<ul style="list-style-type: none"> ①合同研修会（全体会・分科会・授業研究・連絡会）などを行う。児童生徒の実態を知り、指導方法の違いや、教科の系統性や連続性を確認し、それぞれの発達課題を理解した上で、足立スタンダード型の授業ができるようにする。 ②研究授業公開を小中4校が各1回ずつ実施し、各教科領域の相違性や連続性の理解を深め、円滑な接続を目指す。 ③児童生徒の学力の情報を交換し、個別指導に生かす。 ④入学予定児童の状況を伝え、中学校での個別指導の資料とする。生活指導面での円滑な接続を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①合同研修会を8回行い、小中相互の学校公開期間中の教員による授業参観も行った。 ②小中合同の分科会を5つ編成し、各分科会提案による授業研究を4回行った。 ③毎回、保健部会では児童生徒の学力や生活・健康等に関する情報交換を行った。また、小学校の教員が「中一勉強合宿」の指導者として3名参加した。 ④「中一ギャップ」を軽減するため、小中連絡会を行い、様々な分野の情報を伝え、それぞれの生活指導に生かすことができた。 	<p>今年度は中学校が統合し、連携する小学校も増えたため、年度当初には連携行事の見通しが立たない部分もあった。</p> <p>小中連携については、3月から準備を始め、実施しながら追加・改善をしてきた。</p> <p>教科の系統性・連続性を意識して小中の教員と一緒に指導案を作成・協議することができた。</p>	◎
児童生徒の連携	児童生徒の交流を年3回以上	<ul style="list-style-type: none"> ①サマースクール補助に生徒を要請する。 ②小学生が中学校運動会の参観や競技参加できる機会を設定。 ③小学生が中学校文化的行事を参観する。 ④生徒会役員が小学校に来校し、学校紹介・説明会を行う。 ⑤部活動体験会6年生が参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎回2,3名の生徒が参加し、指導補助を行った。 ②江北桜中運動会を児童が参観した。 ③江北桜祭を参観した。 ④「中学校生活説明会」は、開催しなかった。 ⑤部活体験会に6年生が参加した。 	<p>サマースクールの指導補助や運動会・合唱コンクール等の参観については、江北中の時と同じように連携することができた。</p>	◎

目標実現に向けた取り組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
生活指導の連携	①交通安全・生活安全について小中で共通した指導を行う。 ②課題のある児童生徒を共通理解し、指導に生かす。	①生活指導部を中心に、発達段階に応じた内容・方法で、統一した指導を行う。 ②定期的に生活指導上の情報交換・合同研修会を行う。	①生活指導部を中心に、問題行動に適切な対応をすることができた。 ②小中連絡会の他、毎月、生活指導上の情報を交換している。	生活指導面で中学校と連携して対応する事案が少なかった。	○
地域やP T Aの連携への協力	地域行事、P T A主催行事に児童延べ100人派遣する。また、小中連携講演会等に延べ10人以上の教員を参加させる。	小中学校P T A主催行事、地域行事に教員、児童を積極的に参加させ、地域・P T A・教員・小中学生との交流を深め、地域の見守りのもと、小学校から中学校へ円滑に進学できる環境をつくる。	・荒川ウォークラリー10名、・ビーチボールバレー大会30名、 ・地区P T Aによるふれあい音楽会 ・教員も述べ20名以上が行事に参加し地域・P T Aと連携を深めた。	地域行事の中で中学生ボランティアが活躍している姿は小学生にとって模範であり、地域で活躍する人になるという気持ちを育てることができた。	○

3. 学校活動全般について

平成25年度：学力重点校、平成26～29年度：授業力向上校。平成28年度から児童の基礎学力定着と教員の授業力向上のために「学力定着指導員」の配置を受け、学力向上に取り組んできた。平成29年4月に実施した区学力調査の結果（学校全体の目標通過率）は、前年度の通過率を20ポイント上回るものとなった。安定した学級経営を行い、組織的・計画的な補充学習教室を年間通して行った成果と言える。

授業改善と児童理解のために、教職員全員が一丸となって様々な課題に対して主体的に取り組む姿は、学校全体のよい雰囲気づくりにつながった。また、扇小学校の児童一人一人が安心して学校生活を送ることができるように、勉強が楽しくなるように教員が全力を尽くすことを、保護者のご理解・ご協力と、地域の皆様のご支援が支えて下さった。

29年度に足立区の各小学校に新たに配置された「学習支援員」による個別指導は、学習内容の定着に課題のある子供への支援に大変有効だった。支援を受ける児童の生き生きとした表情や学習指導に加わってもらっている教員の会話からもその充実ぶりがうかがえる。さらに、3・4年生で行っている「そだち指導」では、学力中間層の子供たちへの個別指導を丁寧に行った結果、3期間のべ36名のほとんどが目標値を超えることができた。平成30年度からは、校内に開設する「特別支援教室」の担当者と連携して、さらに個別指導を充実させていきたい。

全校児童が行っている毎月の「俳句作り」や図書ボランティアの皆様のご協力による「読み聞かせ」などをさらに充実・発展させ、ことばの力を高めていきたい。このことは、国語科だけに留まらず全教科の学習の充実に役立つものと考えている。

「頭・心・身体」をバランスよく育てるために、毎年6学年児童が模範となる行動を下級生に示してくれることは、本校の伝統であり、これからも継続できるものと期待している。素直で活発な扇っ子たちが、思いやりの心を育て、体力向上に励むように指導を継続し工夫していきたい。そのためにも、子供の良い面に注目し「できることを教え」て行きたい。